

本日の資料の位置づけ

- 1 現状・課題の客観的分析・確認等（第1～2回会議で説明）
 - ・本市の財政構造（他都市と比べて全体的に歳出水準が高い）
 - ・財政が厳しくなった理由（収支の不均衡→負担の先送り→将来負担の増大）
 - ・国の義務付けのない歳出（収支の不均衡の一因）には何があるのか
 - ・高齢者人口の増加，それを支える生産年齢人口の減少（社会福祉の増大・持続困難の一因）

2 対策の方向性（第2回会議以降，5回に分けて議論）

- ① 歳入
 - ・ 京都の強みを税収増につなげるまちづくり
 - ・ 課税自主権の更なる活用
 - ・ 保有資産の総点検と更なる活用 など
- ② 歳出
 - ・ **国の義務付けのない歳出等の点検**
（社会福祉施策，他会計繰出金，その他の事業）
 - ・ 効果的な投資事業の推進と市債の償還も含めたトータルの公費負担の軽減
 - ・ 行政の仕事のあり方の方の見直しと効率的な執行体制の確立 など

※ 今後，必要となる対策の規模については，第4回（10月下旬頃）に提示予定

その他歳出の点検の対象と視点

- 1 各種補助金
主な補助金の支出状況
開始年度が古いもの、補助率が高いものなど
 - ・ 補助金については、その性質上、固定化のリスクがあるため、当初の目的は、今でも社会情勢に沿っているか、額に見合う事業効果が出ているかなど、不断の検証が必要ではないか？
- 2 特別会計繰出金
特別会計への税負担の状況
特に規模の大きい公営企業への繰出金の分析
 - ・ 一般会計が非常に厳しい中で特別会計の経営状況を踏まえ、税投入をどこまで行うべきか？
- 3 施設の運営状況
施設種別ごとの受益者負担割合・税負担割合の状況
 - ・ 施設の種別ごとに受益者負担・市民負担は適切な水準になっているか？
 - ・ 今後の大規模修繕も見据えて、受益者負担・市民負担はどうかあるべきか？